

皆様こんばんは、渡辺佑己でございます。高い所から甚だ僭越ではございますが、今日はこのような貴重な場をいただきまして、まず初めに黒岩会長といつも仲良くしていただいている公輔君に厚く御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

それでは、本当にこのような場で私のような若輩者がお話をさせていただくのも甚だ恐縮ではございますが、情報通信—私、今NTT東日本というところにおりますので、いろいろとお話をご紹介させていただければと思います。

初めに私の自己紹介をさせていただければと思います。神奈川の藤沢、所謂「湘南」といわれているところに生まれ育ちまして、小・中・高、それから大学も慶應ではございますが、地元の藤沢にある湘南藤沢キャンパスというところにおりました。先ほど公輔さんからご紹介いただきましたけれども、NTT東日本に入社したのが2007年頃になります。今まで藤沢という地域で生まれ育ち、学生の間会社を起すというのも、当時、小泉首相が1円からでも株式会社が作れるという時代でもありまして、教育関係の会社を作ったりしておりました。その後はNTT東日本に新卒として入りまして、営業の仕事、商品の開発の仕事、経営企画部門という支える仕事をバランスよくやってまいりまして、4月1日にNTTグループの広報をやるNTTアドという会社に異動しまして、内閣・総理官邸の国際広報の業務を担当しております。

NTTアドという会社を簡単にご紹介します。NTTグループの広報関係を担っている会社でございます。多分、皆様初めて聞かれると思いますが、どのような位置づけの会社かをご紹介させていただきます。NTTとはよく聞いたことがあると思いますが、所謂、持ち株制でございまして、真ん中に親会社、大きいNTTというのがありますが、実質200~300人しかいない親会社でございまして、私はNTT東日本という会社に入りました。ここが所謂、電話とかフレッツ光とかを提供している会社でございます。同じ並びに例えばDocomoであるとかデータであるとかコミュニケーションズとかよくCMをやっている会社がいるかと思います。そういった上段のほうにある会社がお客様に直接サービスを提供する会社として、私はNTTグループとして東日本とかDocomoといった会社を広告面でバックアップする会社に今、入っております。私がそこで4月1日から何の業務に携わっているかというところ、これまでやったことのない業務ではございますが、内閣府の安倍総理の海外に情報発信するというところの国際広報の仕事をしております。

続いて情報通信—まず変遷ということですが、今の皆様の普段使っている電話というのはどうなの？という簡単なお話でございますが、昔使っていた「黒電話」のようなものはほとんどございません。ピークは平成9年で、今は半分くらいに落ちてまいりました。今までガラパゴス携帯といったら変ですが、パカパカの携帯は段々無くなってまいりまして、今はスマートフォン。最近時計型のメールを見たり音楽を聴いたりするスマートウォッチとかメガネ型のグーグルデバイスといったようなものが出てまいりました。

今後の情報通信の行方ですが、特に2020年東京オリンピックの頃に大きく変わるといわれております。2020年に関するいくつか予測をご紹介させていただきます。新興国といったら失礼ですが、例えばブラジル、中国、中南米がどんどんGDPが大きくなっていきます。その中で日本の力をどうやって伸ばしていくのかが大きな課題になってきます。人口の構成グラフを見ると日本というのは世界に先駆けて高齢化が進んでまいります。75歳、65歳以上の方が3割以上というのが2020年頃の予測でございます。その中でインターネットの接

続端末台数はどんどん増えていき、世界で 500 億台くらい。日本だと 20 億台。これはどれくらいかと言いますと、ひとり当たりだいたい 6 台とか 7 台くらい、こういう機械を持つでしょう。もしくは今は携帯電話ですが、例えば冷蔵庫につながったりとか、いろいろな家電につながっていくというのが今後予測されます。海外旅行者数もどんどん増えていきます。そういったものがこれから見込まれている状況でございます。

これからの情報通信のトレンドですが、ネットワーク、所謂、光ファイバーとか超高速通信。デバイスといった端末がどんどん進化していく。またクラウドといった技術の革新が進んでいく。よくソフトバンクの孫社長がこれからの「三種の神器」は「ネットワーク」、「デバイス」、「クラウド」とおっしゃっています。

今後 2020 年頃、NTTグループが思い描く未来の図ですが、例えば交通。これから先、電車の遅延情報とか道路の渋滞情報が逐一リアルタイムで個人の携帯に配信される。もうすでに今、実現しているところもありますが、どんどん人々の手に自動的に配信されることにより世の中がどんどんよくなっていくでしょうと。本当に実現するかどうかはわかりませんが、そういう未来を描いております。

その中で 1 つ、現実的に NTTグループとして取り組んでいるナビと観光、翻訳のサービスをひとつご案内させていただきます。訪日外国人の数が今、非常に増えていると思いますが、そういう方々が現実問題、日本の空港に降り立った時点からホテルやレストランにどうやって行くのかという話です。まず昔ながらのやり方でいえば各国の言語で翻訳された道路標識を沢山出せばいいじゃないかという話ですが、現実的にはお金もかかりますし、全ての言語を表示するのは難しいと考えております。その時に、例えばスマートフォンにあるアプリケーションをインストールしていただいて、駅もしくは空港から観光地までを各国の言語に自動的に翻訳するようにしたらいいのではないかと。それで観光スポット、レストランとかの情報も提供しながら、それを見ながら街中を進んで行く。その時に今後はメガネ型のデバイスとかがいろいろと出てくると言われています。ひと昔前だと未来のドラえもんの世界のようなかたちになっていますが、こういうものが実用化されてまいりまして、端末に設定されている言語に自動的に翻訳されたり、高齢化が進んでまいりますので、バリアフリーのルートを認識して案内することなどが可能になってまいります。

これからの時代に求められる能力、スキルですが、私が個人的に戒めを含めて書かせていただいておりますが、東京オリンピックを前にしてどんどんサービスの価値とか新しいものが求められています。その中で本当に求められている能力、スキルというのは益々厳しさが増してきていると考えています。個人的には「心」・「技」・「体」と。私、個人的に書いていることですが、非常に私の中ではいいなあと思っております、こういうことを私自身への戒めとしてご紹介させていただきます。

まず「心」は精神のことです。本当に言語や文化、価値観の異なるいろいろな国の人達が日本にこれからやってまいります。その中で発想の転換、困難な状況を達成する—そういった心、精神力を身に付けていかなければいけないと考えております。「体」—よく最近、メンタルヘルスであるとかストレスフルな状況というのをよく聞くかと思いますが、そういったタフなビジネス環境下でも常に自分を再生できるそんなタフで粘り強い人材になっていきたいと思っております。個人的にはフリーウェイトといってダンベルをやったり、ロードバイクといった競技用の自転車で大会に参加したりしておりますが、そういうことが大事になってくるかなと。捨て犬ケアのボランティアも個人的に犬が好きだということでやったりしています。

「技」－私が一番これから先、身に付けていきたいと思っているところですが、成果主義というものがこれから先は求められてくるだろうと思っております。今まではやり方さえ良ければよかったのではないかとありますが、これから先いろいろな国の方々といろいろな考え方の中で、相手の期待を常に超えられるような成果を出していかないと。否が応でもそういう状況になってしまうというのが出てくるかと思っております。そこに応えられる答えを持っていけるように。例えば私であれば、今会社に勤めており、経営に必要な知識というものを体系立てて学ぶ。例えば経営学修士のMBAというものがあります。そういうのを海外のMBAであったり、もしくは日本国内でいろいろな国の人達がいる英語で学べるMBAもあると聞いておりますので、そういうものを習得して、「心」・「技」・「体」三位一体となって成長していきたいと思っております。

以上長くなりましたが、情報通信の変遷と取り組みということで渡辺がお話させていただきました。どうもありがとうございました。

<閉会点鐘：黒岩会長>

渡辺先生、いろいろとありがとうございました。私と豊田さんなど蚊帳の外のような話で。中澤さんもそうでしたね。これからはスマートフォンを更に勉強しまして皆様についていけるような自分でありたいと思っております。来年はこのジャンルに非常に強い宮代さんが会長ですので、皆さん安心なさせて頂きたいと思っております。それでは第50回目の例会を終了させていただきます。